

高校生の提言のとりまとめ結果

平成 21 年 10 月

① 将来の新居浜市

新居浜東高等学校 2年 亀井桃子

橋本未紅

山内玲央奈

私は将来の新居浜市が、活気に溢れ、大人から子供まで全ての住民が安心して暮らしていける笑顔いっぱいな市になるように、そして観光客も多く訪れてどこの市にも負けないと誇れるような故郷であるように、以下の事の実現が必要だと考えたので提言します。

1. 道路の盤備

新居浜は、道路の舗装を迅速に行うべきだと思います。理由は、道が凸凹していたり、きちんと舗装されていない場合、自転車に乗っている高齢者が白線から出てきたり、歩行者が躓いたり大変危険で、なおかつ自動車やバイクの運転者も困るからです。今舗装している道路ももちろんありますが、出来るだけ早く各道路の舗装をしなければ、こういった危険がいつまでも起こりうる状況になってしまうので、迅速な道路の舗装は必要だと思います。また、見通しの悪い道や、線路付近の道路で、踏切が閉まる時に大変渋滞するところもあるので、カーブミラーの確実な設置、道路を降下させて電車が通るときも自動車が渋滞せずに進めるようになってほしいです。

2. 行楽地や観光地、スーパーマーケットの充実

学生にとって、新居浜にはあまり遊びに行く場所がなく、イオンなど限られたお店しか行きません。さらに、最近はいんぴあ別子や総合科学博物館などにも、あまり観光客が見られません。そこで、市民の行楽や、観光地としての新居浜作りのために、駅前に幅広い年齢層の方が楽しめ、遊ぶことの出来るアーケードなどがあれば良いと思います。その他、コンサートホールなどを建てたり、遊園地のようなものもあればもっと観光客が来て効果的かつ経済面においても良いと思います。また、新居浜の太鼓祭りや夏祭りなど、観光客も市民も共に盛り上がる事が出来るイベントがより充実すれば良いと思います

次に、高齢者社会となってきた今、自転車や自動車に乗れなくなってきたお年寄りの方のために、出来れば各地区にスーパーマーケットを建設していただきたいです。川西地区、上部地区には、ある程度スーパーマーケットがありますが、川東地区にはあまりないと感じます。お年寄りの方で、自転車や自動車に乗れなくなったら、買い物にもいけなくなってしまおうと思っている方もいらっしゃると思うので、実現すればそういったお年寄りにとって大変便利で助かると思います。

3. 市内の施設、道路の完全バリアフリー化

最近の市内の学校や病院などでは階段をスロープにしたりと少しずつバリアフリー化が進んでいます。しかし、市全体で完全にバリアフリー化を進めていかなければ、障害を持つ方や、お年寄りの方々は困ると思います。そこで、市内の全施設のバリアフリー化や、市内の全ての信号機

を音楽が鳴るようにし、点字ブロックを完全に設置すべきだと思います。また、実現には、実際に障害を持つ方やお年寄りの方の意見を聞くことが必要になると思いますし、多くのお金と時間がかかるとは思いますが、より良い新居浜づくりには確実に必要であると考えます。

4. 外灯の改善

夜、下校中帰り道がとても暗いといつも思います。なるべく大通りを通って帰ってみても、家の近くになると真っ暗でいつも怖いなと思っています。そこで、外灯を出来るだけ多く、大きい道だけでなく通学路になる道などに設置していただきたいです。

5. 市民活動について

現在、市民一斉清掃などの市民活動を行っていますが、もっと地域全体で交流でき、楽しめる活動が増えればと思います。例えば、市内のお年寄りたちが子供たちに昔の遊びを伝承する活動など、今自治会でやっている活動の規模を大きくした、市全体の活動があれば楽しいと思います。

6. 市政と市民のかかわり方

新居浜市をより良くしたいという思いは、全市民が思っているはずですが、こう改善したらいいという意見は、多かれ少なかれ皆の中にあると思います。ただ、それを伝える機会がないだけだと思います。市民全員の意見を聞くことはできないと思いますが、もっと気軽に意見を伝えられるような方法があれば良いと思います。そして今より市民中心の市政になればと希望します。

② 十年後の新居浜、私の夢

新居浜工業高等学校 3年 鞠川 勝哉

十年後の新居浜の具体的な姿形は私には想像が付きません。しかし、どのようにすれば新居浜がより良くなり、栄えるかということについては、私なりにいろいろと考えることができます。そこでまず、新居浜という町のすぐれた点を挙げてみたいと思います。

第一に新居浜には「別子銅山」という古い歴史があります。もちろん、今は閉山となり『文化遺産』として存在するものですが、その歴史をたどると、当時のすぐれた工業技術を常に取り入れ、発展し続けてきた様子がよく分かります。そして多くの人の地道な努力が「別子銅山」の発展を支えてきたことを知ることができます。私はこういう「別子銅山」の長い歴史を見ると何か自信のようなものが湧いてきます。新居浜の工都としての歴史は決して根の浅いものではないと思います。何度も困難を努力で乗り越え、新居浜の繁栄の源となった「別子銅山」が閉山となっても、しっかりと新居浜市は工都の伝統を受け継ぎ、発展してきました。その歴史が、今を生きる私たちの背中を力強く後押しをしてくれる気がするのです。そして新居浜市の十年後を明るくものに想像させてくれます。また、このすばらしい歴史をもつ「別子銅山」を観光スポットとし、自信をもって県内外にもっと大々的に宣伝すべきではないでしょうか。ここから観光の町としての新居浜の未来が開かれると思います。

第二に豊かな水、穏やかな気候に恵まれた新居浜市の自然に注目したいと思います。最近では異常気象が続く渇水に苦しむ土地も多く見られます。しかし新居浜市は、南に高くそびえる山々のおかげで地下水が豊富です。もちろん、水の無駄遣いは許されませんし、節水を心がけるのは当然のことです。しかし生活水、飲料水にも不自由する他の町の様子を見ると、新居浜は、本当に豊かな自然に恵まれているのだとつくづく思います。しかも、新居浜の水は日本の名水に選ばれるほどのものです。この水を生かして新居浜の特産物となる農作物生産することで工都としてだけでなく、農業も盛んな町になる可能性も考えられます。現在、日本全体でも農業に従事する人はとても少なくなっています。しかし、地元で生産された農作物を地元で消費してもらえば、農家の人々の収入も安定し、後継者も増えます。新居浜の人口を増やすには、工業や商業の面からだけでなく、農業面からも考えるべきだと思います。工業と農業は環境汚染問題等でよく対立してしまう関係です。工都新居浜もこの問題の解決に様々な努力を重ねてきました。これから先の10年間も、せっかく恵まれた自然環境を破壊してしまうことなく、上手に生かしていかなければならないと思います。

第三に北に広がる瀬戸内海です。今、海岸沿いは工場が数多く建てられています。現在の海水浴場は一つだけで人工です。昔は海水浴ができる自然の浜辺があったそうですが、現在はなくなりました。この点は非常に残念です。日本は島国ですからどこに行っても美しい海の景色を望むことができます。その中でも島の多い瀬戸内海の美しい風景は最高だと思います。工業技術を生かしてもう一度美しく楽しい浜辺を復活できないでしょうか。それができれば安全な新居浜の海産物や特産物をもっとたくさん手に入れることができます。現在でも地元産の魚が手に入りますが、この広い海、海岸のよさを十分に活用できていない気がしてなりません。

第四に現在の新居浜のたくさんの工場が持つ技術力について述べたいと思います。私が在学している新居浜工業高校では、二年生の時にインターンシップを実施しています。そこで私たちは、短期間ですが、新居浜市の各工場で実際に働かせていただきます。また「工場見学」で各工場の方たちが講話に来られています。このような体験を通して、私は新居浜市の中小企業の工場が持つ技術力や生産力のすばらしさ、力強さを再認識させられました。また新居浜工業生は卒業後、地元の企業に就職する者が多く、各工場で先輩方が活躍しています。新居浜工業高校の「ものづくり」の精神が新居浜市内の企業の「ものづくり」に役立っているような気がして嬉しく思います。そして、この新居浜の各工場が持っている「ものづくり」の技術をすたらせてはいけなく考えます。これから十年間、新居浜市が持っている町工場の技術力を大切に、さらに磨きをかければ、工都新居浜の発展にとっても役立つ存在になるはずで。

最後に新居浜の玄関口と言える「新居浜駅」の十年間を考えたいと思います。正直言って現在の新居浜駅は規模が小さ過ぎるように感じます。そして駅の周辺も何か物足りません。しかし今、開発の最中で道路なども新しく開通し、どんどん変わりつつあります。以前から駅の周辺はぱっとしない感じで、よそから初めて新居浜駅に降りた人などは、周りがあまりに寂しそうな風景なのでびっくりしたそうです。玄関口の駅は新居浜という町の第一印象になるのです。十年先にはもっと栄えている町の象徴になっていることを期待します。

以上私なりに、五つの点から、新居浜の十年後について考えを述べました。五つともばらばらではなく、すべてがつながっている事柄だと思います。どれが欠けても新居浜市の十年後はバランスがとれずにゆがんでしまうような気がします。逆に言えばそれだけ繁栄のための条件を新居浜はたくさん持っているということです。いろいろな方面から十年後の新居浜市を想像すると私は自分の将来にも夢が持てる気がしてきました。そして自分から動くことを考えなければいけないと思いました。自分が持てる力を新居浜市で発揮し、そして繁栄する新居浜市が自分にさらに大きい夢を与えてくれる、こういう関係を新居浜市で十年間かけて築き上げたいと思います。

③ 白いもスイーツで地域活性化～わたしたちにできること～

新居浜商業高等学校 3年 高津 優

私たちは三年生になって、課題研究という授業をするようになりました。私はその中でもデュアル講座につきました。その講座の中でも地域で行われている夏祭りを活性化させようとしている分野につきました。毎年、夏祭りのお手伝いをさせてもらっているのですが、今年は、学校が創立五十周年ということもあり、自発的に何か地域に貢献しようということで何か出品することに決めました。

そして、いよいよ商品計画が始まりました。まず、地域の特産物を使用することはもちろんのことなのですが、どの特産物を使用するのか本当に悩みました。愛媛県の特産物であるみかんという意見が多かったのですが、一人の生徒が、「大島では今、白いもを作る人の後継者たちがどんどん減ってきているというのをばあちゃんから聞いたことがある。」と言いました。すると周りの生徒たちが、「白いもって何？」という疑問の声を上げました。その一人の生徒が、「白いもは普通のさつまいもよりも甘くておいしよ。大島でしか育たないし、大洲でしか採れん貴重な特産物なんよ。」と言いました。みんなその時に大体の想像はできました。後継者不足という現状である上に知名度がまだ低いということで、私たちは地元の特産物である「白いも」を使った商品づくりを進めていくことに決めました。

そして、白いもを使ってどのようなものを作るかの話し合いになりました。多くの意見が出ましたが、その中でも最近では生キャラメルが流行っているということで、白いも生キャラメルを作ろうという意見が出ました。北海道の花畑牧場の生キャラメルが爆発的に売れたことをきっかけに、今でも大ヒット商品となっており、コンビニにも置かれる程です。よってみんなで話し合った結果、今人気の生キャラメルと特産物である白いもを組み合わせたら、素晴らしい商品となり、多くの人に買ってもらえる、つまり多くの人に「白いも」を知ってもらうことにつながるのではないかという結果になりました。

しかし、白いも生キャラメルというだけでは面白さにかけるという意見も出ました。生キャラメルは、プレーンだけでなく最近では、いちご味、メロン味、抹茶味、レモン味とさまざまな種類の味が出てきています。その中で、白いも味というのはめずらしくどこにもないと思うのですが、はたして人気の出る、ずっと愛され、好まれる商品になるのかということで、白いもを使った生キャラメルを使った加工品を作ってみよう！ということになりました。

そしてどんな加工品を作るかという話し合いにまでなりました。そこで一人一つずつ自分が良いと思うものを考えてくることになり、次の日にみんなで発表をしました。その中で厳選した結果、アーモンドをのせたもの、白いもキャラメルクレープ、白いもをぎゅうひで包んだものの3つに選ばれました。

そして、製造に協力していただいた別子飴本舗のみなさんにこの三つの案を見てもらいました。すると、クレープという案にとっても驚かれています。斬新なアイデアであり、高校生らしくて面白いというお言葉をいただきました。とりあえず、クレープという形で実際に作ってみることにしました。生キャラメルを作り、クレープ生地に巻いて食べたりしました。キャラメルの味が強す

ぎて、白いもの味が出にくかったため、白いものを多くしました。そして、もう少し歯ごたえが欲しい、クレープ生地だけでは、薄すぎて満足感が少ないなど、実際に食べてみることで多くの改善点が見つかりました。

そして、みんなで力を合わせて改善に改善を重ねた結果、「白いもキャラープ」が完成したのです。

白いもを使ったスイーツを作り、白いもスイーツを販売したことで少しかもしれないが白いもを知ってもらいました。そしてこれからは新居浜にしかない、新居浜でしか食べられない、白いもスイーツを目的に新居浜に来てもらえるような商品づくりをしていきたいと考えています。

④ 新居浜市に望むこと

愛媛県立新居浜西高等学校 1年 大西 健斗

今、僕が暮らしているこの新居浜の中で、好きな所を探せ、と言われると、とても多くのことを挙げられます。例えば、この町は自然と工業が共存している町だということ、福祉面への取り組みが優れた、弱い立場の人達にも優しい町であること、などです。

では、逆に新居浜市の中でもっと改善してほしいところはどうでしょう。

僕には、少しですが、改善してほしい所があります。それは、交通面のことです。

この、交通面の問題について、僕は二つの提案をします。

まず、僕が考える交通面の問題とは、高齢者の交通事故、交通マナーや意識の低下のことです。

初めに、高齢者の交通事故についてです。

この新居浜市には、多くの高齢者が住んでいます。高齢者の多くは明るく元気に、日々の生活を楽しんでいます。

しかし、日本全国では、高齢者が関わる交通事故が増加傾向にあります。この内の多くの場合、高齢者が運転している自動車の操作ミスによるものが原因となっています。アクセルとブレーキを踏み間違えた、方向指示器をつけ忘れた、などです。

では、高齢者は自らの運転が一步間違えれば危険だということを知らないのでしょうか。そうではありません。実は、高齢者の多くは自らの運転の危険性を認識しています。

それでは、なぜわざわざ危険なリスクを冒してまで、運転するのでしょうか。

その答えの一つが、こんな所にあります。それは、「運転したい」のではなく、「運転せざるを得ない」からです。これがどのようなことかということ、自家用車以外の交通手段、例えばバスです。バスに乗りたいが、金額が高い、本数が少ない、バス停から遠い、などの理由で、「しかたがないから」自家用車を運転している高齢者がいるということです。僕達にとって簡単に解決できることですが、高齢者にとってこの問題は解決がとても困難で、重要な問題となります。

この問題を解決する為に僕が提案することは、市とバスが連携し、高齢者を守ることです。

内容を具体的に言えば、市がバス会社に要請し、バスの本数やバス停を増やしてもらったり、金額をもう少し安くしてもらおう等の対策を取ってもらいます。しかし、これだけではバス会社が損をするだけなので、市の助成金等でカバーしてもらおうということです。

このような、別の交通手段が使いやすくなる活動は、高齢者にとって大きな力となるのではないのでしょうか。

次に、交通マナーについてです。

現在、新居浜市では交通事故がとても多く起こっています。

その原因の一つとして、僕は市民の交通マナーや意識の低下を考えました。

法律や条令では、交通事故に関する罰則がたくさん作られています。

そのような状況下で、なぜ人々は交通事故を起こしてしまうのでしょうか。それは、交通ルールを「守ろうとしていない」からではないのでしょうか。

この問題の解決にはルールや法よりも、一人一人のマナーが重要だと思います。ここでの提案は、交通マナーの啓発を強化するという事です。

啓発を強化するというのは当然、回数を増やすということも含まれます。しかし、僕はその内容も重視すべきだと考えました。今までの啓発活動は、書面や口頭、放送などによってのもので、「受動的」なものが多かったと思います。

そこで僕が考えたのは、公共の施設を使用し、みんなが参加できる活動をする事です。

例えば学校で大人と子供と一緒に、クイズなどを通して楽しみながら学ぶことができる場をつくる、交通ルールに関する検定を受けてもらう、などです。

このような機会を、たとえ一日であろうとも作ることで、市民はより交通について深く理解し、マナーや「守ろう」という心が身につくのではないのでしょうか。

このように、交通面では様々な問題があり、改善していくことでより住みやすい新居浜市になっていくのではないのでしょうか。

もちろん、警察署との連携や、今までの啓発活動はそのまま続けてほしいと思いますが、それに新たな活動を取り入れることによって、より強く効果が得られると思います。

このような活動の上で、交通事故がなく安心して暮らせる新居浜市になってほしいと思います。

⑤ よりよい新居浜市にするために

新居浜工業高等学校 一年 村上 奨

新居浜市はとても住みやすい所だと思います。しかし、この町をもっと住みやすくするために、また、この町の将来のため行ったらいいと思うことが幾つかあります。

一つ目は、急速に進んでいく国際化に対応するシステムを構築するということです。現在、新居浜市はアメリカ・ウィスコンシン州のフランクリン市と姉妹都市条約を締結しています。私は昨年四月から十一月にかけて、国際交流アメリカ訪問の一員として、当地を訪問してきました。成果を上げるために、半年以上事前の研修を積み重ねてきました。訪問地では、二十名の生徒と三名の指導者が相互に協力しながら活動し、たくさんの思い出をつくることができました。また現地では、生徒全員がホームステイを行いました。私のホストファミリーの場合、その祖先は、ドイツ人とポーランド人だと語っていました。

短い間でしたが、ホームステイの体験を含め、様々な研修を積み重ねていく中で強く感じたことは、多くの国の人々が共存する社会はとても素晴らしいものだと思います。アメリカでの生活は、初めてのことでありましたが、さすがに「自由の国」というだけあって、そこに暮らす人々は、みんな明るい人たちがばかりでした。新居浜市もあのように、未来に明るい希望を持って、個人が尊重される文化的な都市になればいいのと思いました。フランクリン市だけにとどまらず、内からも送り出し、外からも受け入れる交流がどんどん促進され、新しい価値観や考え方が積極的に受け入れられる町づくりが行われれば、大変素晴らしいことだと思います。

二つ目は、新居浜市を訪れる人を増やす取組を再考することです。年々、入込み観光客は減ってきています。今治市が、今回名産のタオルをブランド化することに成功したように、新居浜市でも市名を広く発信したり、観光客を呼び込む工夫を何か行うべきだと思います。特に、駅前周辺の開発工事が無駄にならないようにしなければいけません。道路の拡張に伴い、古い住宅が新しい住宅に建て換えられただけだという風評もちらほら聞こえてきます。近々のスーパーのフジが進出して来るということですが、市民生活の利便性を図るだけではなく、観光客の耳目を集めるシンボリックな何かを造ることも必要ではないでしょうか。駅前には町の象徴です。他市に誇れるものがあれば、市民としてうれしい限りです。

また前述した国際化の進展に伴い、彼らを受け入れる施設の拡充も考えなければなりません。姉妹都市からの交流生にも自信をもって紹介できるものが重要です。新しいものができれば、これに越したことはありませんが、しかし、予算上難しい問題があるかもしれません。よく考えてみると、新居浜には、マイントピア別子や愛媛県総合科学博物館、市立図書館、グリーンフィールド新居浜やマリパーク新居浜など、多面的な機能を持ったすぐれた施設も多くあります。このような施設の使用の幅と頻度を高め、拡充させていけば、ある程度対処していけるように思えます。新居浜市への来訪者が増えることで、町は活気づきます。こうした活気が、新居浜市に新しいウェーブを起こしてくれると思うのですが・・・。

三つ目は、新居浜太鼓祭りの在り方についてです。新居浜市が全国に誇れる行事として太鼓祭りの存在は否めません。しかし残念なことに、あいかわらず喧嘩が毎年あり、死傷者が何人か出

ています。秋祭りというのは、本来、五穀豊饒を祝って行うものと聞いていますが、地域の人と触れ合って協力できる行事として、他県に誇れる催しだと思います。県外に就職している人でも、わざわざ休暇を取って、祭りに参加するために帰ってくるという話もよく耳にします。若い人から年輩の方まで、同じ新居浜太鼓台を愛する人々の熱い思いが一年に一度この秋祭りに凝縮する－これは素晴らしいことだと思います。多くの観光客を集める新居浜市の代名詞として、今後、何世紀にもわたって継承されていく「生きた文化財」として、大切に育んでいきたいものです。また、そのためには、若い力を集めることも肝要です。高校生の昇き夫としての参加を許諾できる太鼓台運営委員会と高校との前向きな協議も今後望まれます。

いずれにしても、住民が安心して暮らせる町づくりを行うことが最終目標になるでしょう。今は、鍵を二重三重にかける時代です。犯罪面だけではなく、水やゴミ処理の問題など、新居浜市が抱える問題は多くあります。二十一世紀は「こころの時代」だとよく言われます。ハード面を行政に期待するばかりでなく、我々住民の一人一人が、身近な所からできることを一つ一つやっていく－そんな使命感と矜持をもって、子や孫まで安心して安全に暮らせる町づくりを行うべきでしょう。多くの人間の集合体が町であり、都市であり、国であることを忘れてはなりません。

1. 高校生の提言のまとめ

大分類	中分類	提言	生徒
都市基盤	道路	<ul style="list-style-type: none"> ・道路を迅速に舗装すべきである。 ・見通しの悪い所にカーブミラーを設置し、アンダーパス等で踏切付近の渋滞を解消してほしい。 ・市内の全施設のバリアフリー化や音の鳴る信号機、点字ブロックを全個所に設置すべきである。 ・大通りだけでなく、通学路にも外灯を設置してほしい。 	①
	市街化整備	<ul style="list-style-type: none"> ・新居浜の玄関口である「新居浜駅」を10年先にはもっと栄えている町の象徴になっていることを期待する。 	①
		<ul style="list-style-type: none"> ・駅前周辺に観光客を呼び込むシンボリックな何かを造ることが必要。他市に誇るものがあれば、うれしい限りである。 	⑤
	港湾	<ul style="list-style-type: none"> ・工業技術を生かし、海水浴ができる美しい浜辺を復活してほしい。 	②
産業振興	農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の名水に選ばれた新居浜の水を生かし、特産物となる農業生産物をつくることで農業の活性化につながる。 ・恵まれた自然環境を生かし、地産地消を行うことより農業を安定させることが、後継者不足や人口の減少を解消するのではないだろうか。 	②
	工業	<ul style="list-style-type: none"> ・町工場が持っている「ものづくり」の技術を大事にし、さらに磨きをかけることが新居浜の発展につながると思う。 	②
	商業	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前にみんなが楽しめるアーケードをつくり、コンサートホールや遊園地をつくってほしい。 ・太鼓祭りや夏祭りなど、イベントの充実により市民も観光客も楽しめる町にしたい。 ・各地区にスーパーをつくり高齢者も住みやすい町にしたい。 	①
		<ul style="list-style-type: none"> ・新居浜の玄関口である「新居浜駅」を10年先にはもっと栄えている町の象徴になっていることを期待する。(再掲) 	②
		<ul style="list-style-type: none"> ・白いもスイーツを通して地域を活性化し、新居浜にたくさん人が来てもらえるよう、新しい商品を作りたい。 	③
		<ul style="list-style-type: none"> ・駅前周辺に観光客を呼び込むシンボリックな何かを造ることが必要。他市に誇るものがあれば、うれしい限りである。(再掲) 	⑤
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・「別子銅山」という素晴らしい観光スポットがあることを県内外に大々的に宣伝すべきである。 	②
<ul style="list-style-type: none"> ・マイントピア別子や愛媛県総合科学博物館などの施設を拡充することにより、国際交流等を通して新居浜が活気づくと思う。 		⑤	
保健福祉	高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の全施設のバリアフリー化や音の鳴る信号機、点字ブロックを全個所に設置すべきである。(再掲) 	①
市民環境	交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・市が助成金等を出して、バスの本数や停留所を増やすことにより、高齢者の事故を防ぎたい。 ・交通ルールに関するクイズや検定などを通して、交通ルールに対する意識を改善し、交通事故を防ぐ。 	④
教育文化	芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前にみんなが楽しめるアーケードをつくり、コンサートホールや遊園地をつくってほしい。(再掲) 	①
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・新居浜市が全国に誇れる太鼓祭りを「生きた文化財」として大切に育んでいくために、若い力を集める目的で太鼓台運営委員会と高校との前向きな協議を望む。 	⑤

大分類	中分類	提言	生徒
行財政 運営	生涯学 習まち づくり	・市全体でお年寄りが子供たちに昔の遊びを伝承する活動をしたい。	①
	市民 参加型 行政	・市民が気軽に意見を言える方法を考え、市民中心の市政となることを希望する。	①
	国際 交流	・姉妹都市との交流だけにとどまらず、新しい価値観や文化を積極的に受け入れられるまちづくりをしたい。	⑤

